

【木曾川上流の減災に係る取組方針(令和3年度～令和7年度)】作成のポイント

- 1、フォローアップ結果や各機関からの意見等を踏まえ、3本柱の取組は継続実施。
- 2、「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画に基づいた取組を実施するが、「**教育委員会と連携した防災教育の幅広い推進**」「**排水作業準備計画に基づく関係機関が連携した排水訓練を実施し、訓練実施結果を踏まえた排水計画の更新**」を木曾川上流の減災に係る取組方針(令和3年度～令和7年度)として新たに実施する重点的な取組として設定。
- 3、各機関の取組のフォローアップを行いやすくするために、取組項目ごとにグループ化した事項を設定。今後、取組の進捗状況を確認し、継続的なフォローアップを実施する。

※取組にあたっては「木曾川水系流域治水プロジェクト」や「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」と連携して進めていく

「木曾川上流の減災に係る取組方針」(令和3年度～令和7年度)取組内容

下線:新たに実施する重点的な取組

1. 迅速な避難と被害の最小化に向けた住民の主体的な避難行動を促す取組

(1) 避難行動の情報伝達、避難計画及び訓練等に関する事項

- ①市町村避難指示と連動したタイムラインの策定・運用(継続実施)
- ②住民の確実な避難のための避難指示などの情報の伝達方法の確立と伝達内容の充実(継続実施)
- ③広域避難体制の構築(新規)

(2) 平時からの住民等への周知・教育・防災意識に関する事項

- ④想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表(継続実施)
- ⑤想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図を基にした洪水ハザードマップの策定・周知(継続実施)
- ⑥小学・中学校などの学校や自治会、企業、定住外国人等に対する水害(災害)教育の充実と住民の防災意識の向上に資する取組の強化
→「**教育委員会と連携した防災教育の幅広い推進**」を新たに実施

(3) 円滑かつ迅速な避難に資する施設や体制の整備に関する事項

- ⑦洪水に対してリスクの高い箇所を監視する CCTV カメラ、水位計の整備(継続実施)
- ⑧深夜や荒天時においても確実な避難誘導が実施できる体制の整備(継続実施)
- ⑨円滑かつ迅速な避難のための経路の設定や避難所までの案内看板の整備(継続実施)

2. 発災時に生命と財産を守る水防活動の強化

(1) 水防関係者の訓練や資機材等の点検、連携協力に関する事項

- ①水防活動の知識の習得と技術力向上のため、関係機関が連携した水防訓練やひ門等の操作訓練等の実施(継続実施)
- ②水防に万全を期すために出水期前に水防倉庫等の建屋、保管されている水防資機材等の点検を実施(継続実施)

(2) 水防活動や避難に関する情報伝達に関する事項

- ④重要水防要箇所等の洪水に対してリスクが高い箇所について水防団・消防団や地域住民が参加する合同巡視による情報共有(継続実施)
- ⑤水防団・消防団へ雨量・水防警報等水防活動や避難に関する情報の伝達方法の確立と伝達内容の充実(継続実施)

3. 洪水氾濫による被害の軽減と日常を取り戻すための排水活動の強化

(1) 排水作業準備計画及び訓練等に関する事項

- ①早期の復旧・復興のため氾濫水を迅速に排水するため、拡散型・閉塞型の氾濫形態毎に排水施設情報の共有・排水手法等の検討を行い、「排水計画」を作成する(継続実施)
- ②排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施する
→「**排水作業準備計画に基づく関係機関が連携した排水訓練を実施し、訓練実施結果を踏まえた排水計画の更新**」を新たに実施
- ③堤防決壊時の対応(情報伝達、復旧工法、排水計画の検討など)を演習することを目的に、堤防決壊シミュレーションを実施する(継続実施)

1. 迅速な避難と被害の最小化に向けた住民の主体的な避難行動を促す取組 (2) 平時からの住民等への周知・教育・防災意識に関する事項 ⑥ 小学・中学校などの学校や自治会、企業、定住外国人等に対する水害(災害)教育の充実と住民の防災意識の向上に資する取組の強化

新たに実施する具体的な取組① 教育委員会と連携した、小・中学校への防災教育の幅広い推進

○防災教育の今後に向けて、より学校教育関係者との協力・連携の強化を図り、学習機会の拡大による防災意識と知識の向上の普及を目指す。
○連携に向け、令和3年9月から木曾川上流河川事務所と県・各市町の防災部局、教育関係者(県・市町の教育委員会)との意見交換を進めていく。



学校と連携した防災教育の教材作成

- 出前講座等で関わりのあった小学校を中心にモデル校として連携
- 教材内容等について打合せの実施



モデル校との打合せの様子

連携するモデル校の教員による試行授業の実施

- モデル校と連携して作成した教材(案)を使用した試行授業の実施
- 実施結果から、改善すべき点などを随時教材に反映



教員による防災教育教材を活用した授業風景

教材の汎用性の向上

- 様々な地域で活用できるように、地域性の高い素材等は極力扱わず、汎用性のあるものを用いて作成
- 教材を4つのテーマ(過去の自然災害、公助、共助、自助)に分け、授業で活用できるように発問・板書計画を作成



防災教育教材

防災教育ポータルサイトの構築・公開

- 作成した教材を、教員や自治体職員等が自由にダウンロードして活用していただける防災教育ポータルサイトを構築し、木曾川上流河川事務所HPに公開(令和3年7月)



防災教育ポータルサイト

防災教育の更なる推進のため、木曾川上流河川事務所と教育関係者(県・市町の教育委員会)との意見交換を進める。

【主な項目】

- ・水防災教育の実施状況
- ・活用している水防災学習教材等の確認
- ・その他、ご意見等

3. 洪水氾濫による被害の軽減と日常を取り戻すための排水活動の強化

(1) 排水作業準備計画及び訓練等に関する事項

②排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施する

新たに実施する具体的な取組②

排水作業準備計画に基づく関係機関が連携した排水訓練を実施し、訓練実施結果を踏まえた排水計画の更新

〇市町の協力を得ながら木曾川上流河川事務所が排水計画を早急に作成し、県・市町と連携して訓練を実施して排水活動の強化を行う。

背景

- 近年、相次ぐ水災害を受けて毎年のように排水ポンプ車による排水作業が実施されている。
- 氾濫水の排除に寄与する一方で、排水作業現場では複数関係者との調整の必要性が挙げられている。



全国に配備されている排水ポンプ車を活用して排水作業を実施

平成30年7月豪雨時における排水作業(岡山県)



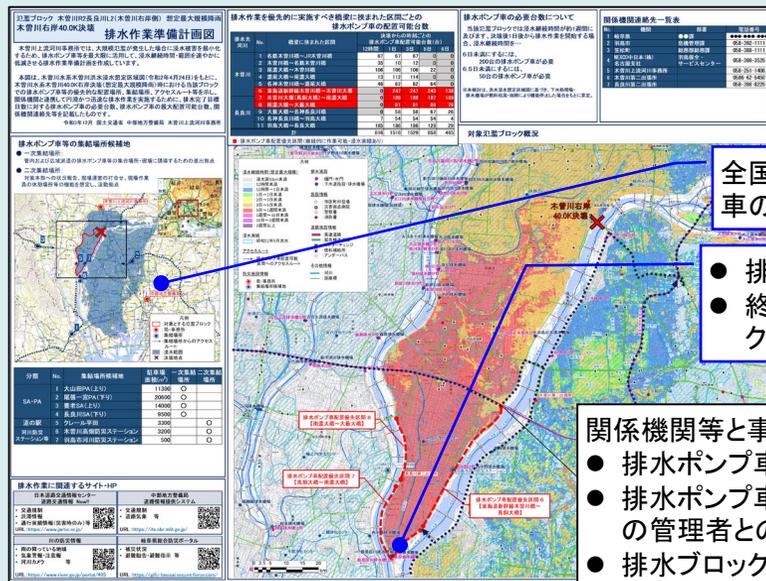
排水ポンプ車の設置により、排水ホースが堤防天端道路を横断

排水作業への影響

- 排水ポンプ車を派遣した箇所の堤防天端道路の通行止ができず、再度配置場所を検討し排水作業が遅れてしまう。
- 堤防天端道路に設置されるホースが交通の支障となり、車両通行の都度排水を停止するなど運転時間に制約をうけ排水期間が長期化してしまう。

今後の取組方針

- 木曾川水系洪水浸水想定区域図では、浸水継続時間が最大2週間以上となることが想定されている。
- 木曾川上流河川事務所では、氾濫形態ごとの排水ブロックと排水手法を検討し排水作業準備計画図を作成する。計画にあたっては、関係機関と事前協議が必要となる事項を整理し実効性のある排水作業準備計画を取りまとめる。
- 排水作業準備計画に基づく関係機関と連携した排水訓練を定期的実施し、確実な排水作業が実施できる体制を担保する。



全国から集まる排水ポンプ車の集結場所を記載

- 排水ポンプ車配置場所の明示
- 終結場所から配置場所へのアクセスルートを記載

- 関係機関等と事前協議が必要な事項
- 排水ポンプ車配置場所での通行規制
 - 排水ポンプ車配置場所となる排水施設の管理者との調整
 - 排水ブロック内の排水ひ管等のゲート解放手順の調整 等

排水作業準備計画図のイメージ